

コンピュータースクールミシン

取扱説明書

ブラザーエリートAT直線307

brother

必ずお読みください

1 めう前の準備

めう前に必要な準備を説明します。

2 めい方の基本

基本のめい方と上手にめうコツなどを説明します。

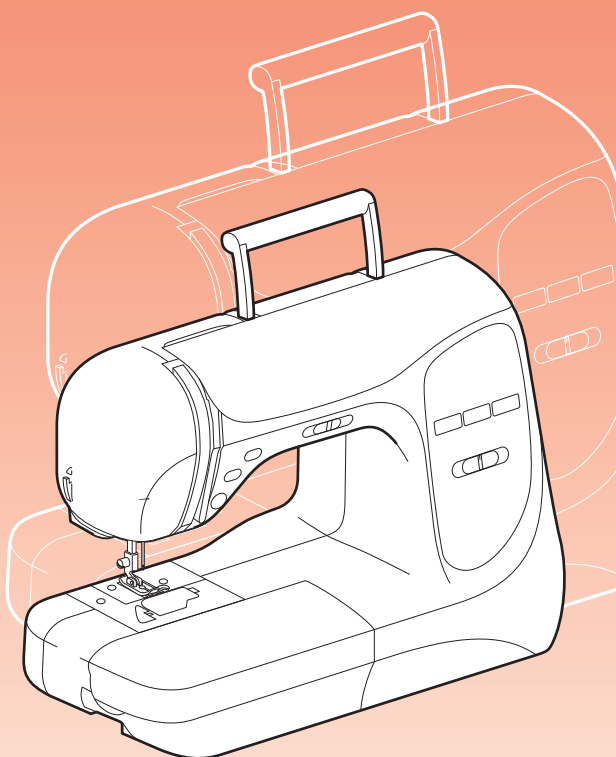
3 その他のめい方

その他のめい方とその使い方を説明します。

4 付録

ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法などを紹介します。

必要に応じて
お読みください



- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、当社の製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」(→P.3)をよくお読みの上、この取扱説明書をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、末永くご愛用ください。
また本書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

もくじ

はじめに	
安全にお使いいただくために	3
付属品を確認してください	8
付属品	8
各部の名前とはたらき	10
前面	10
針・押え部	11
右側面・背面	11
操作スイッチ	12
表示パネル	13

1 めう前の準備 15

電源を入れましょう.....	16
電源に関する注意.....	16
電源を入れる.....	17
電源を切る.....	17
下糸をセットしましょう	18
ボビンに関する注意.....	18
下糸を巻く.....	18
下糸をセットする	22
上糸を通しましょう.....	24
下糸を引き出してからぬうとき	27
針を交換するには.....	28
針に関する注意.....	28
針の種類と使い分け	28
正しい針の見分け方	29
針を交換する.....	30
押えを交換するには.....	31
押えに関する注意	31
押えを交換する.....	31

2 めい方の基本..... 33

ぬってみましょう.....	34
ミシンかけの手順	35
布地をセットする	36
ミシンをスタートさせる.....	37
返しぬいをする	38
糸を切る	40

上手にぬうコツ	41
糸調子を調節する	41
ぬい目の長さを調節する	42
試しぬいをする	42
ぬう方向を変える	42
カーブをぬう	43
厚い布地をぬう	43
薄い布地をぬう	43
伸びる布地をぬう	43
ぬいしろの幅をそろえる	44

3 その他のぬい方..... **45**

ファスナーを付ける	46
つき合わせ	46
片返し	47
筒もののぬい方	50

4 付録..... **51**

お手入れ	52
本体表面の掃除	52
釜の掃除	52
困ったとき	54
電子音について	56
上ふたが外れたとき	56
仕様	58
本体仕様	58
索引	59
別売オプション	61

安全にお使いいただくために

本書および本機で使われている表示や絵文字は、本機を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

 警告	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

本書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。



特定しない禁止事項



分解してはいけません



水に濡らしてはいけません



特定しない義務行為



電源プラグを抜いてください



特定しない危険通告



感電の危険があります



火災の危険があります



やけどの危険があります

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことがらを守ってください。

！ 警告



- 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ 運転中に停電したとき
 - ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき



！ 注意



- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



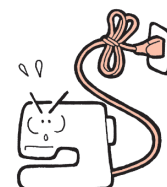
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。



- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン119番」にご連絡ください。



！ 注意



- 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



- 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0～40℃です。マシン内部の温度が上がったり、マシン本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。



- スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。



- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。



- ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から30cm以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。



- ミシン本体の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「ミシン119番」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「ミシン119番」にご連絡ください。



！ 注意



- ミシン本体の重さは約7.5kgあります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。



- ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落として、ケガの原因となります。



- ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。



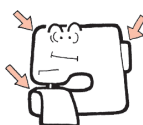
- お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「ミシン119番」にご依頼ください。



- 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。



- ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、プーリー、天びんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。



- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。



- 針の下などに指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。



- 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤りますと、縫製中、糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



！ 注意



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。



- 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「ミシン119番」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「ミシン119番」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。



- ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。



- お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がケガをしないよう十分ご注意ください。



お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 本書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- 本機をご使用になる方(お子様を含む)が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障害を持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様ご使用ときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

付属品を確認してください

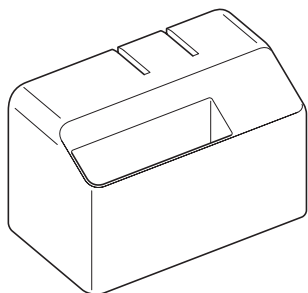
箱をあけたら、まず以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品

箱の中には以下のものが入っています。

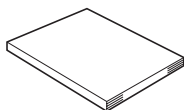
■ 本体・ハードケース

ミシン本体です。ミシンを使用しないときは、ケースに入れて収納してください。



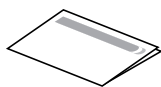
■ 取扱説明書

本書です。大切に保管してください。



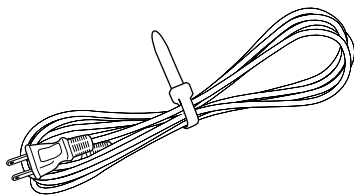
■ 早見表

下糸の準備から上糸を通すまでの手順が確認できます。



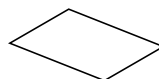
■ 電源コード

家庭用電源コンセント(AC 100V)に接続します。



■ 保証書

ミシンを修理するときなどに必要です。大切に保管してください。



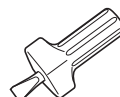
■ 糸こま押え

上糸をセットするときに使います。糸こま押えは、購入時にミシンの糸たて棒にセットされています。



■ ドライバー

ミシン針を交換するときなどに使います。



■ ミシンブラシ

釜などの細かい部分のほこりを取り除くときに使います。



■ 押え(2種)

- ☐ 直線専用押え



購入時は、本体に取り付けられています。

- ☐ 片押え



■ ボビン

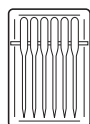
下糸を巻いて使用します。本機専用のものが4個付属しています。そのうちの1個は、購入時に釜にセットされています。



■ ミシン針(HA×1)

4種類(計6本)の針が付属しています。糸の太さや布地によって使い分けます。

詳細は「針の種類と使い分け」(→P.28)で説明します。



黄 #11(2本)

赤 #14(2本)

緑 #16(1本)

ニット用金 #11(1本)

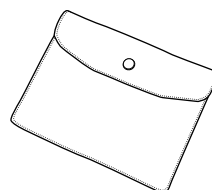
■ 針板ふた

ボビンをセットするときに外します。針板ふたが紛失したときのために、予備として2個付属しています。購入時に本体にセットされているものを含めると、計3個になります。



■ 付属品バック

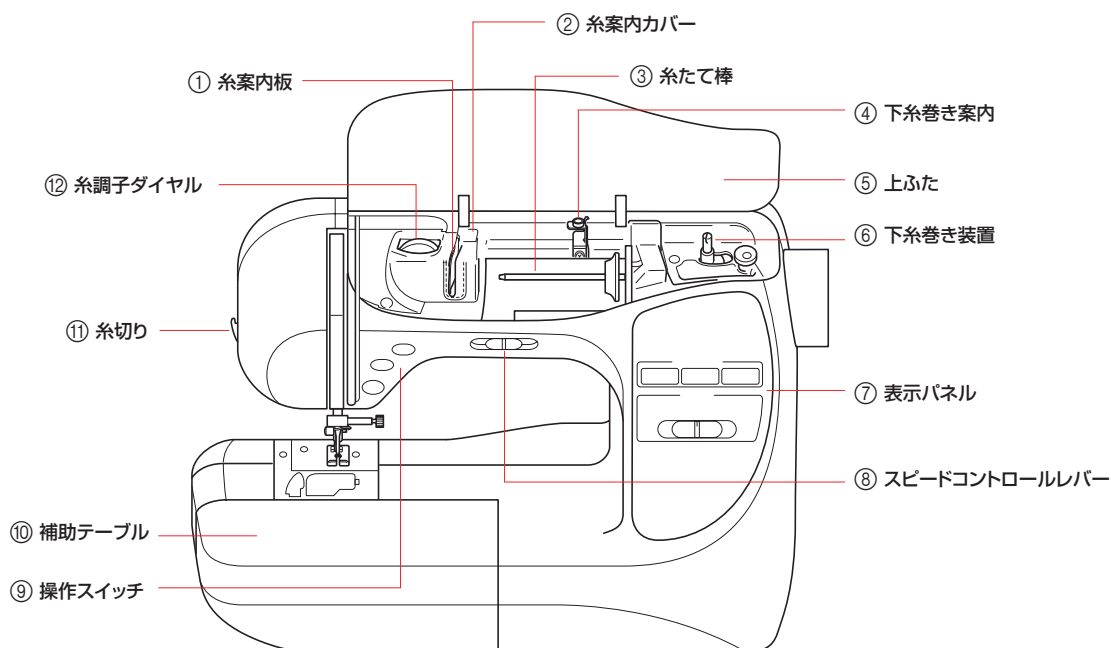
押えなどの付属品を収納します。



各部の名前とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名前とはたらきを説明します。ミシンを使用する前に、よく読んで名前を覚えておきましょう。

前面



① 糸案内板／② 糸案内カバー

上糸を通すときに糸をかけます。

③ 糸たて棒

糸こまを差し込みます。

④ 下糸巻き案内

下糸をボビンに巻くときに糸をかけます。

⑤ 上ふた

このふたを開いて糸をセットします。

⑥ 下糸巻き装置

下糸をボビンに巻くときに使用します。

⑦ 表示パネル

ぬい目の長さを調節します。(→P.13)

⑧ スピードコントロールレバー

ぬう速さを調節します。

⑨ 操作スイッチ

ミシンをスタートさせたり、返しぬいをするときなどに使用します。(→P.12)

⑩ 補助テーブル

袖口などの筒ものをぬうときは、ドライバーなどを使ってここを外します。(→P.50)

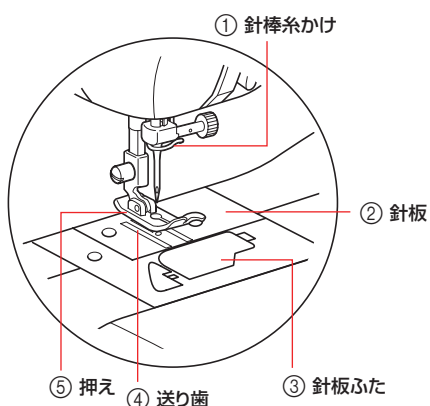
⑪ 糸切り

ここに引っかけて糸を切ります。

⑫ 糸調子ダイヤル

上糸調子を調節します。

針・押え部



① 針棒糸かけ

上糸をかけます。

② 針板

まっすぐにぬうための目盛りが付いています。

③ 針板ふた

ここを開けてボビンをセットします。

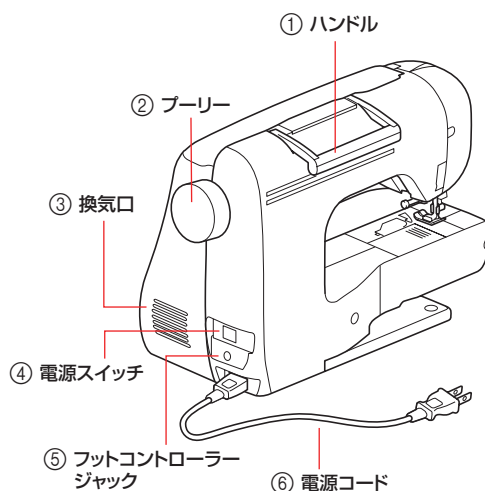
④ 送り歯

ぬう方向に布地を送ります。

⑤ 押え

布地を押さえます。ぬい方に合った押えをセットします。

右側面・背面



① ハンドル

ミシンを移動するときは、ここを持って持ち上げます。

② プーリー

ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げするとき、手前に回します。

③ 換気口

モーターの換気用の穴です。ミシンを設置するときは、ここをふさがないようにしてください。

④ 電源スイッチ

電源を入れるスイッチです。

⑤ フットコントローラーjack

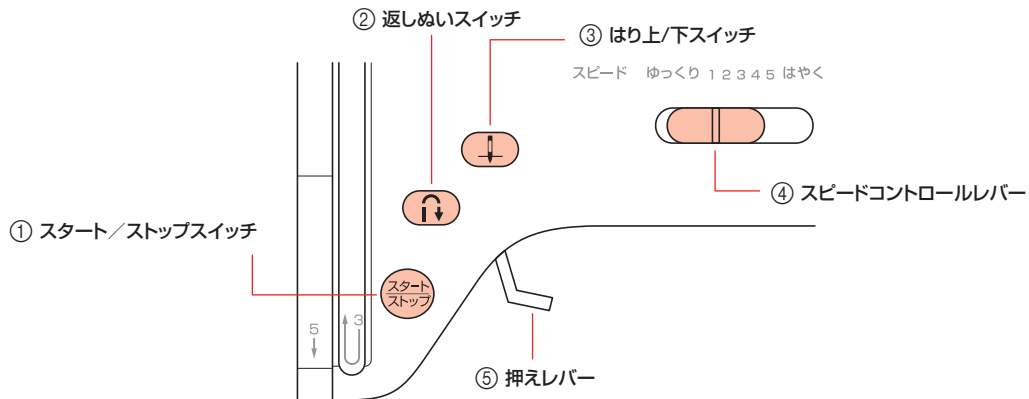
ここに別売のフットコントローラーの接続jackを差し込みます。

⑥ 電源コード

家庭用電源コンセント (AC100V) に接続します。

操作スイッチ

ミシンの基本的な操作が手もとでできます。



① スタート/ストップスイッチ スタート/ストップ

ミシンをスタートまたは停止します。スイッチを押している間は、ゆっくりとぬいます。ボタンは「ピッ」と音がするまで長押ししてください。停止すると、針は上がった状態で止まります。詳細は「ミシンをスタートさせる」(→P.37)で説明します。

ミシンの状態によって、スイッチの色が緑・赤・オレンジに点灯します。

緑：ミシンがスタートできる状態、またはぬっているとき

赤：ミシンがスタートできない状態のとき

オレンジ：下糸巻き軸が右側になっているとき

※ 安全面に配慮して、軽く触っただけでは動かないようになっています。「ピッ」と音がするまで長押ししてください。

② 返しぬいスイッチ 返しぬい

返しぬいまたは止めぬいをします。ボタンは「ピッ」と音がするまで長押ししてください。返しぬいの場合はスイッチを押している間、ぬった方向の逆方向にぬいます。止めぬいの場合は、同じ場所で3～5針分ぬってから止まります。詳細は「返しぬいをする」(→P.38)で説明します。

③ はり上/下スイッチ はり上/下

針の位置を上または下に切り替えます。ボタンは「ピッ」と音がするまで長押ししてください。2回押すと、1針分ぬえます。

④ スピードコントロールレバー

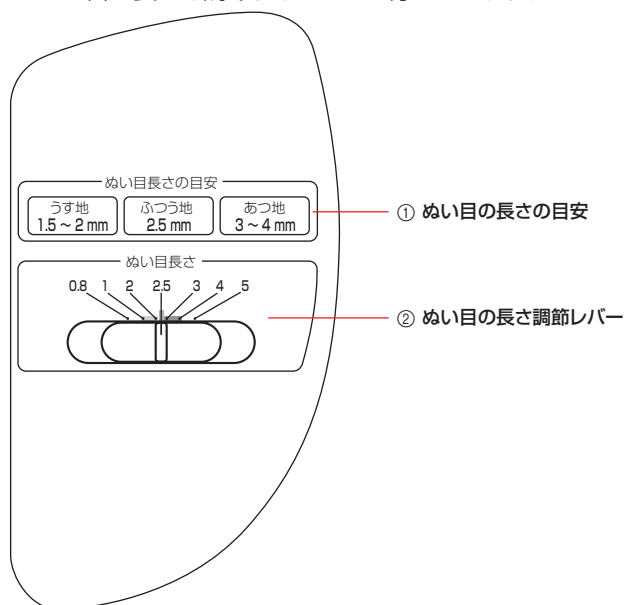
ミシンの進む速度を調節します。

⑤ 押えレバー

押えを上げ下げします。

表示パネル

前面右側の表示パネルには、ぬい目の長さを調節するレバーが付いています。



① ぬい目の長さの目安

ぬい目の長さの目安を表示しています。

② ぬい目の長さ調節レバー

ぬい目の長さを調節します。(→P.42)

1

ぬう前の準備

ここでは、ぬう前に必要な準備を説明します。

電源を入れましょう.....	16
下糸をセットしましょう	18
上糸を通しましょう	24
針を交換するには.....	28
押えを交換するには	31

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。
まず、電源について気をつけなければいけないことを説明します。

電源に関する注意

！ 警告



- 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ 運転中に停電したとき
 - ・ 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき

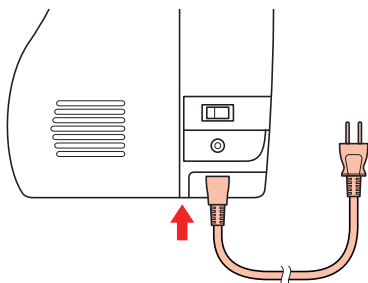
！ 注意



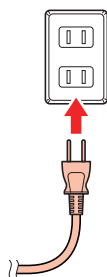
- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン119番」にご連絡ください。
- 長期間で使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

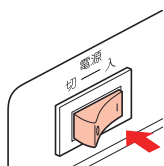
- 1 電源コードをソケットにしっかりと差し込みます。



- 2 電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。



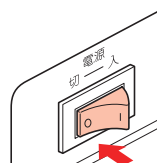
- 3 本体右側面の電源スイッチの右側 (I側) を押します。



電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。

- 1 ミシンが止まっていることを確認します。
- 2 本体右側面の電源スイッチの左側 (O側) を押します。



▶ 電源が切れ、ランプが消えます。

- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。
電源プラグを持って抜いてください。
- 4 電源コードをソケットから抜きます。



お願い

- 運転中に停電が発生したときは、電源スイッチを切ってから電源プラグを抜いてください。再度ミシンを動かす場合は、手順に従って正しく操作してください。

下糸をセットしましょう

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。
まず、ボビンに関して気をつけなければいけないことを説明します。

ボビンに関する注意

！ 注意



- 必ず専用のプラスチックボビンをご使用ください。他のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

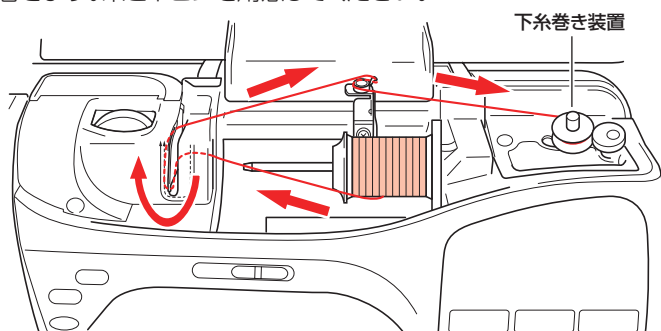


お願い

- 付属のボビンは本機専用のものです。金属製のボビンを使用すると、正しく動作しません。必ず付属品、または**専用ボビン**をご使用ください。

下糸を巻く

下糸用の糸をボビンに巻きます。糸とボビンを用意してください。



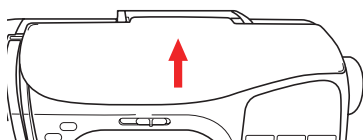
お知らせ

- 下糸を巻くときの糸を通す順番が、本体に点線で示されています。そちらもあわせて見てください。

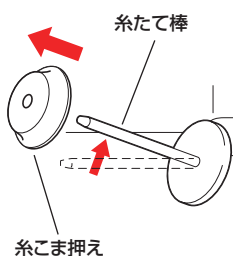
1 電源を入れます。

- 「電源を入れる」(→P.17)を参照してください。

2 上ふたを上を開けます。

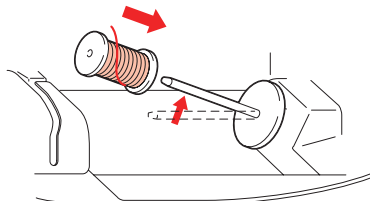


3 糸たて棒に差し込んである糸こま押えを抜きます。



4 下糸用の糸こまを糸たて棒に差しします。

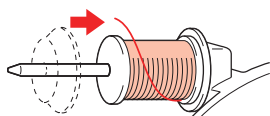
糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きにして差しします。



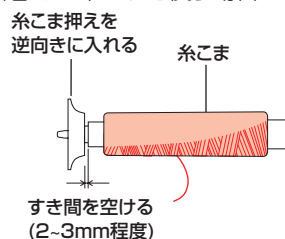
- 正しい向きにセットしないと、糸たて棒に糸がからまることがあります。

5 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えは、糸こまが糸たて棒の右端までいくように右いっぱいまで差し込みます。



● 細巻きの糸こまを使う場合

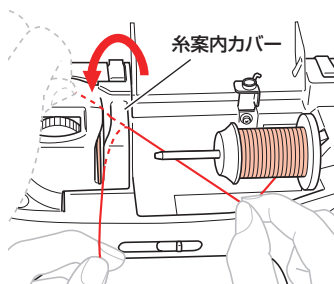


！ 注意

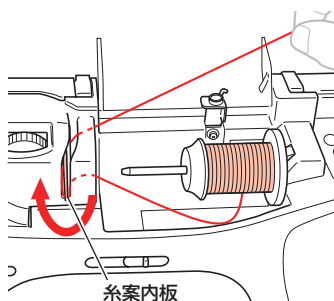


- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。

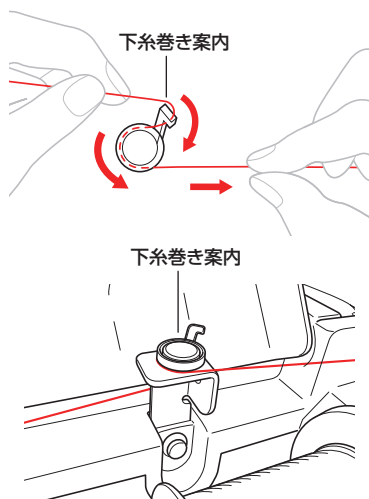
6 糸こまを右手で押さえながら左手で糸を引き出し、糸案内カバーの後ろ側から手前に糸をかけます。



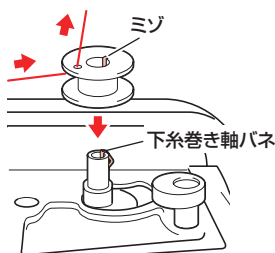
7 糸案内板の右側から下を通して糸をかけます。



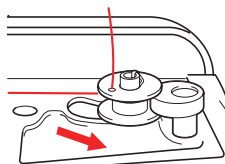
- 8** 糸を右に引いて下糸巻き案内の凸部に向こう側から糸をかけ、皿の間に左回りに糸をかけます。



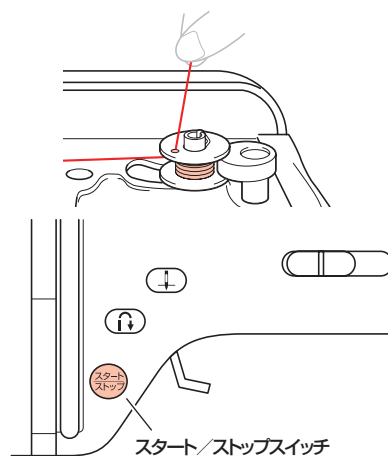
- 9** ボビンの穴に糸を内側から通し、ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて、ボビンを軸に差し込みます。



- 10** 軸にセットしたボビンを右側に押します。



- 11** 糸端を持って  (スタート/ストップスイッチ)を「ピッ」と音がするまで1回長押しします。



！ 注意

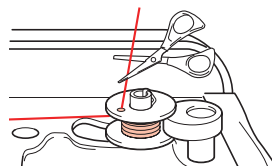


- 糸は少し長めに引き出し、まっすぐ上に伸ばして持ってください。糸が短かったり、たるんでいたり、斜めに持っていたりすると、糸がボビンに巻き込まれ、ケガの原因となります。

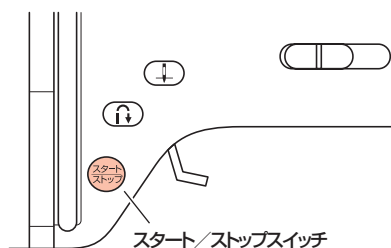
- 12** 少し巻いて、持っている糸が巻き糸で保持されたら、  (スタート/ストップスイッチ)を「ピッ」と音がするまで1回長押しします。

▶ ミシンがストップします。

- 13** 糸端をボビンの外に出ないように切ります。

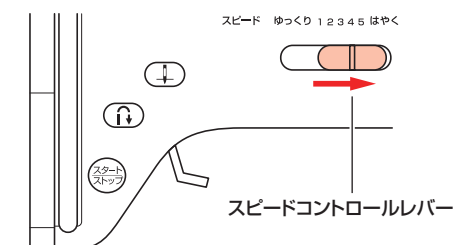


- 14** (スタート/ストップスイッチ)を「ピッ」と音がするまで1回長押しします。



▶ ボビンが回転し、下糸巻きがスタートします。

- 15** スピードコントロールレバーを右(はやく)に動かします。

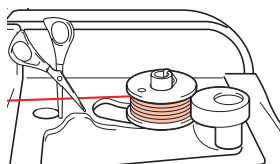


▶ 巻き終わるとボビンの回転が止まります。

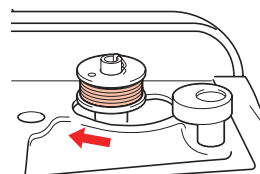
- 16** (スタート/ストップスイッチ)を「ピッ」と音がするまで1回長押しします。

▶ ミシンがストップします。

- 17** 巻き終わりの糸をはさみで切ります。



- 18** 下糸巻き軸を左に戻し、ボビンを軸から外します。

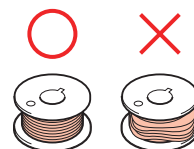


- 19** スピードコントロールレバーをもとに戻しておきます。

！ 注意



● 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



お知らせ

● 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりブーリーを回すと、「ガチャ」という音がすることがありますが、故障ではありません。

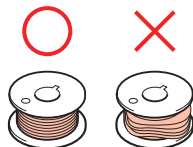
下糸をセットする

下糸を巻いたボビンを釜にセットします。

！ 注意



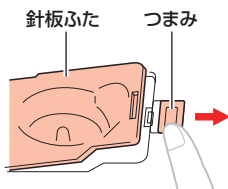
- 下糸のセットは必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。
- 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



お願い

- 付属のボビンは本機専用のものです。金属製のボビンを使用すると、正しく動作しません。必ず付属品、または専用ボビンをご使用ください。

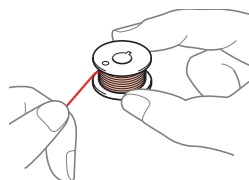
- 1 針板ふたの右側にあるつまみを右に動かします。



▶ 針板ふたが開きます。

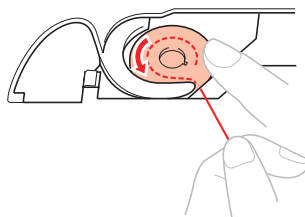
- 2 針板ふたを取り外します。

- 3 右手でボビンを持ち、左手で巻き終わりの糸を持ちます。



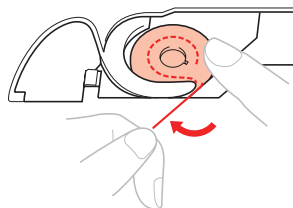
- ボビンを落とさないように注意してください。

- 4 糸が左巻きになるようにして、右手でボビンを釜に入れます。

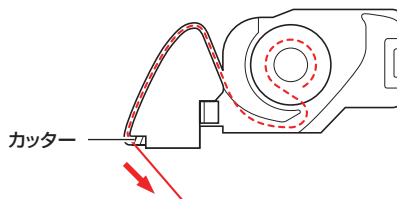


- 糸の方向に注意してください。

- 5 右手でボビンを軽く押さえ、左手で巻き終わりの糸を図のように引っかけます。



- 6 図のようにミゾにそって糸を通し、手前に引きます。



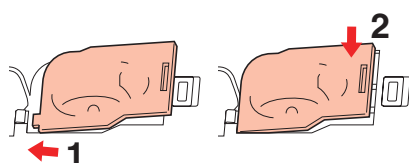
▶ カッターで糸が切れます。

！ 注意

- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

7 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。



▶ 下糸のセットが完了します。

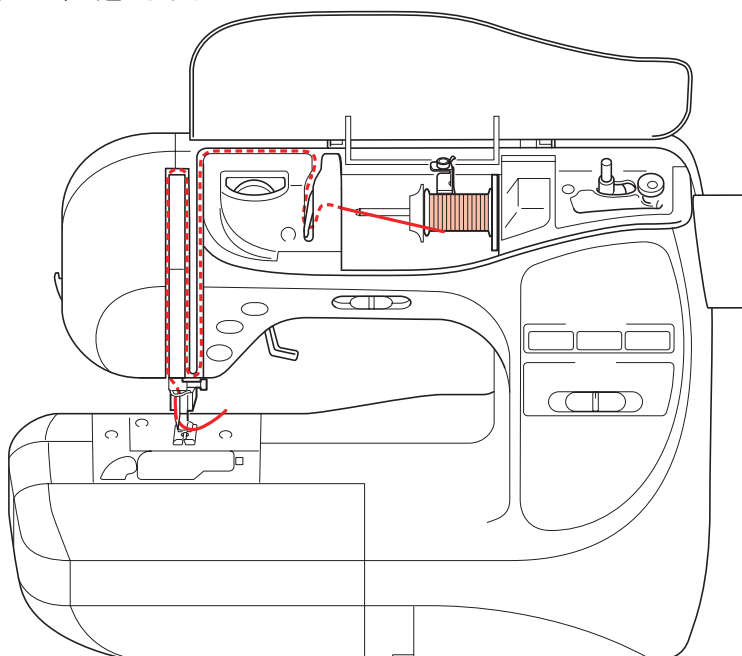
次に上糸を通します。「上糸を通しましょう」(→次ページ)に進みます。

**お知らせ**

- 下糸は引き出さずに、このままぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、上糸を通してから「下糸を引き出してからぬうとき」(→P.27)を参照してください。

上糸を通しましょう

上糸用の糸をセットし、針に通します。



！ 注意



- 上糸通しは指示に従って、正しく行ってください。糸が正しく通されていない場合、糸がからんで針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



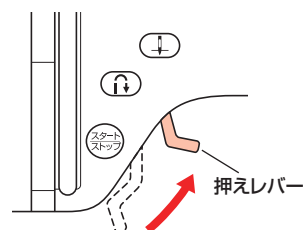
お知らせ

- 上糸を通す順番が、本体に実線(—)で示されています。そちらもあわせて見てください。

1 電源を入れます。

- 「電源を入れる」(→P.17)を参照してください。

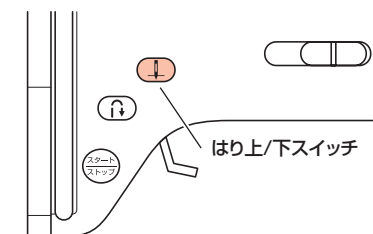
2 押えレバーを上上げます。



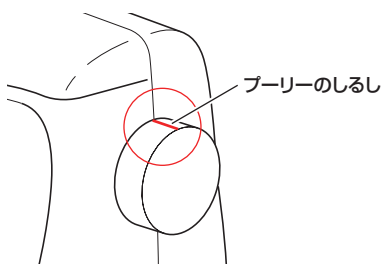
▶ 押えが上がります。

- 押えが下がっていると、上糸を通すことができません。

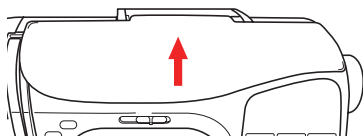
- 3** (はり上/下スイッチ)を1回または2回押して、針を上へ上げます。



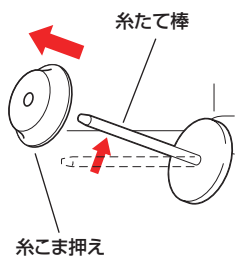
- 針が正しく上へ上がっていない場合、上糸を通すことができません。プーリーのしるしが下図のように上へきている状態が、正しい位置です。この位置にきていないときは、必ずはり上/下スイッチで針を上へ上げてから、以降の操作をしてください。



- 4** 上ふたを上へ開けます。

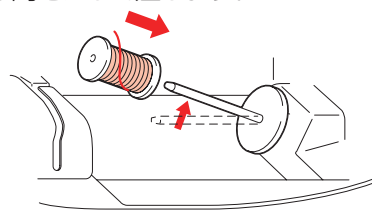


- 5** 糸たて棒に差し込んである糸こま押えを抜きます。



- 6** 上糸用の糸こまを糸たて棒に差しします。

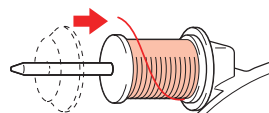
糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きにして差しします。



- 正しい向きにセットしないと、糸たて棒に糸がからまることがあります。

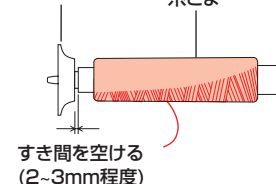
- 7** 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えは、糸こまが糸たて棒の右端までいくように右いっぱいまで差し込みます。



- 細巻きの糸こまを使う場合

糸こま押えを逆向きに入れる

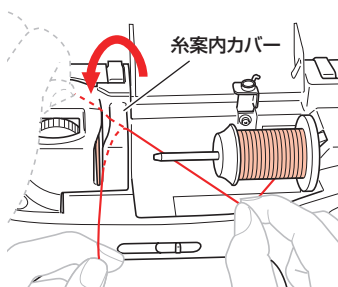


! 注意

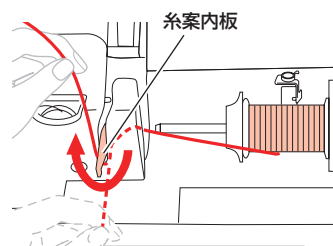


- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。

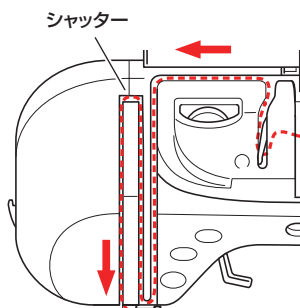
- 8** 糸こまを右手で押さえながら左手で糸を引き出し、糸案内カバーの後ろから手前に糸をかけます。



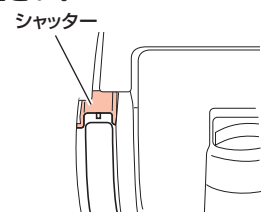
- 9** 糸案内板の右側から下を通して糸をかけます。



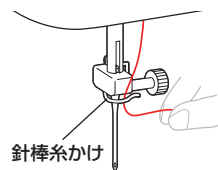
- 10** 糸案内板に引っかけた糸を右手で押さえ、ミゾにそって糸を通します。



このとき押えが下がっていると図のシャッターが閉まった状態になるため、上糸を通すことができません。必ず押えを上げてシャッターが開いている状態で上糸を通してください。

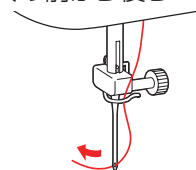


- 11** 針の根もとにある針棒糸かけに糸をかけます。

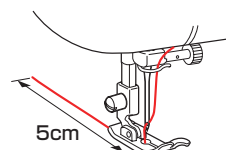


- 12** 針に糸を通します。

糸は針穴の前から後ろへ通します。



- 13** 押えレバーを上へ上げ、糸の端を押えの間に通して後ろ側に5cmほど引き出します。



▶ 上糸のセットが完了します。

これで下糸と上糸の準備ができました。

下糸を引き出してからぬうとき

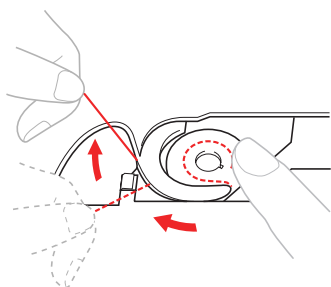
あらかじめ下糸を引き出しておくときは、以下の操作を行います。

① ボビンを釜に入れます。

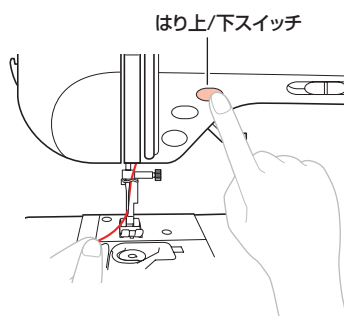
- 「下糸をセットする」(→P.22)の ① ～ ⑤ を参照してください。

② 引き出した糸をミゾにそって通します。

このとき、カッターで糸を切らないでください。

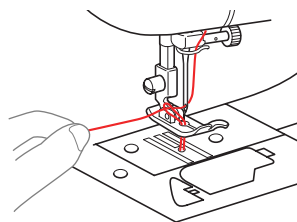


③ 左手で上糸を軽く持ち、(はり上/下スイッチ)を2回押します。

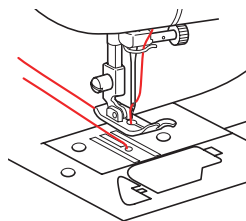


▶ 下糸が針穴から輪になって引き出されます。

④ 上糸をゆっくりと上に引きます。

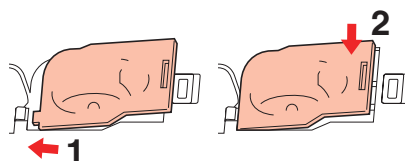


⑤ 下糸を5cmほど引き出し、上糸とそろえて押えの下を通します。



⑥ 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。



針を交換するには

ここでは、ミシン針について説明します。
まず、針について気をつけなければいけないことを説明します。

針に関する注意

針を取り扱うときの注意を説明します。以下の注意を守らないと、針が折れて飛び散るなど大変危険です。よく読んで必ず守ってください。

！ 注意



- 針の交換は必ず電源スイッチを切ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。
- 針は必ず家庭用ミシン針(HA×1)をご使用ください。その他の針を使用すると針折れや故障の原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

針の種類と使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選んでください。

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の種類
		種類	太さ	
普通地	ブロード	カタン糸	60～80	11～14
	タフタ	合繊糸		
	フラノ・ギャバシン	絹糸	50～80	
薄地	ローン	カタン糸	60～80	9～11
	ジョーゼット	合繊糸		
	ポーラ	絹糸	50～80	
厚地	デニム	カタン糸	30～50	14～16
	コーデュロイ	合繊糸	50	
	ツイード	絹糸		
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50～60	HG針ニット用 11～14
	トリコット			
ほつれやすい布地		カタン糸	50～80	9～14
		合繊糸		
		絹糸		
ステッチ糸の場合		合繊糸	30	14～16
		絹糸		

お知らせ

- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- HG針ニット用は伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。
- ナイロン透明糸は、布地や糸にかかわらず14～16番の針を使用してください。
- 購入時は、14番の針がミシンに取り付けられています。

注意

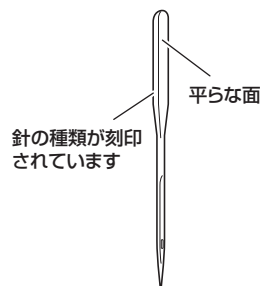


- 布地と糸と針の組み合わせは、前ページの表に従ってください。組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地(デニム等)を細い針(9～11番)でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。また、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因にもなります。

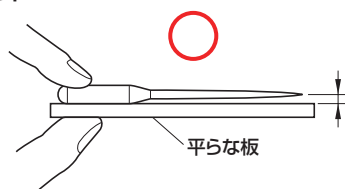
正しい針の見分け方

針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。

使用する前に、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。

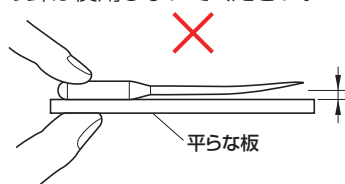


■ 良い針



■ 悪い針

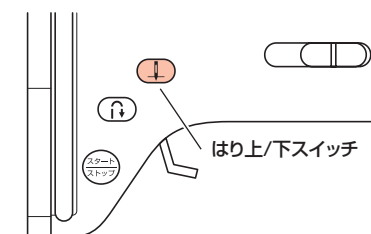
すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。



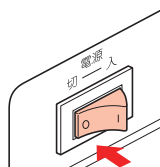
針を交換する

針を交換します。「正しい針の見分け方」で確認したまっすぐな針と付属のドライバーを用意してください。

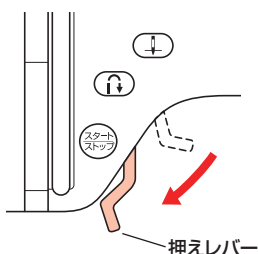
- 1 (はり上/下スイッチ)を1回または2回押し、針を上に出します。



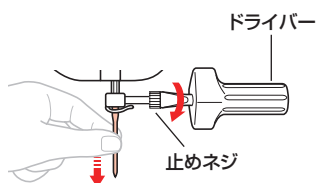
- 2 電源を切ります。



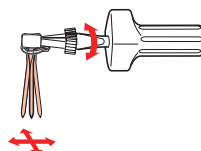
- 3 押えレバーを下に下げます。



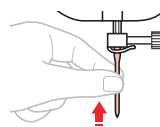
- 4 左手で針を持ちながら、右手でドライバーを手前に回して針の止めネジをゆるめ、針を抜きます。



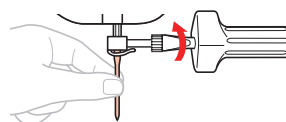
- 止めネジをゆるめたりしめたりするときに、無理な力を加えないようにしてください。故障の原因となります。



- 5 新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、ストップパーにあたるまで差し込みます。



- 6 針を左手で押さえたまま、ドライバーで止めネジをしめます。



！ 注意

- 針は必ずストップパーに当たるまで差し込み、止めネジを付属のドライバーで確実にしめてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジの締め方がゆるいと、針折れや故障の原因となります。

押えを交換するには

押えとは、布が浮かないように押さえる部品のことをいいます。
まず、押えについて気をつけなければいけないことを説明します。

押えに関する注意

！ 注意

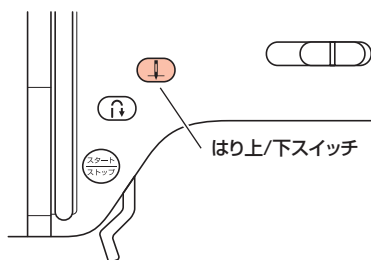


- 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。
- 押えは必ず本機専用の押えをご使用ください。その他の押えを使用するとケガ・故障の原因となります。

押えを交換する

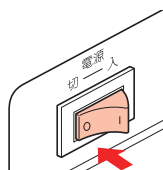
押えの取り外し方と取り付け方を説明します。

- 1** (はり上/下スイッチ) を1回または2回押し、針を上上げます。

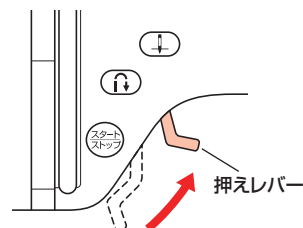


▶ 針が上に上がります。

- 2** 電源を切ります。

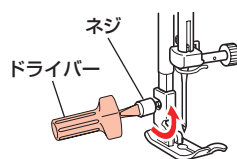


- 3** 押えレバーを上上げます。

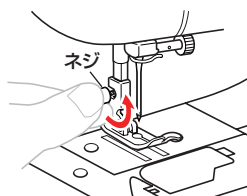


▶ 押えが上がります。

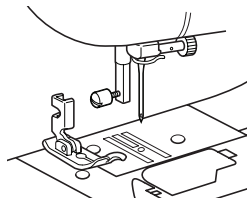
- 4** ドライバーで押え止めのネジをゆるめます。



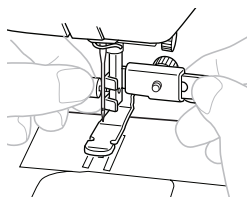
- 5** 少しゆるんだら、手でさらにネジをゆるめます。



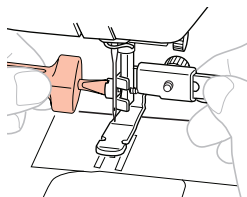
▶ 押えが外れます。



- 6** 片押えを右手で押さえ、左手で押え止めのネジをしめます。



- 7** 最後にドライバーでしっかりとしめます。





2 めい方の基本

ここでは、基本のめい方と上手にめうコツを説明します。

めってみましょう.....	34
上手にめうコツ	41

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。
ミシンをかける前に、注意事項を説明します。

！ 注意

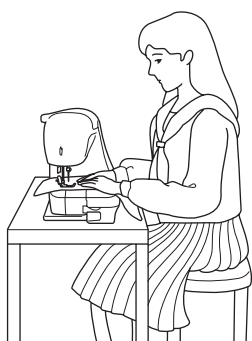


- ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、プーリー、天びんなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。
- 縫製中は布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

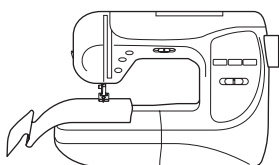
■正しい姿勢



身体の中心がミシン針の中心に向くように自然な姿勢で座ります。



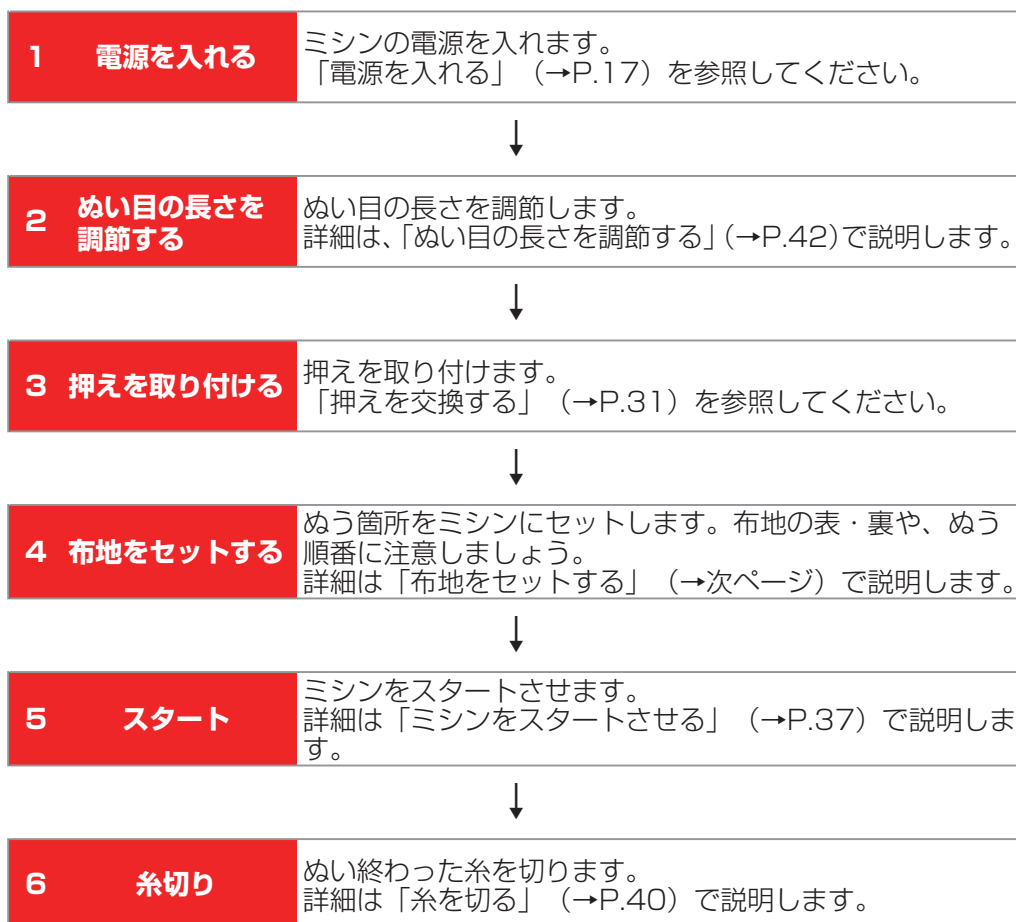
身体をあまりミシンに近付けず、自由に手が動くようにします。



ミシンに向かって左側に布地がくるようにします。ぬい合わせの場合も、大きな布地が左側にくるようにします。

ミシンかけの手順

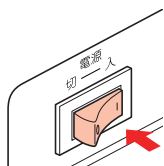
ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。



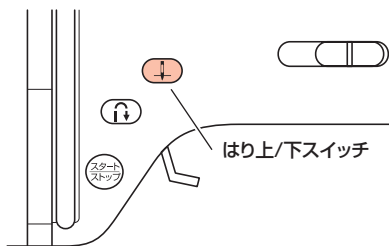
布地をセットする

布地の表・裏や、ぬう順番に注意して布地をセットします。

1 電源を入れます。



2 (はり上/下スイッチ)を1回または2回押し、針を上に出します。

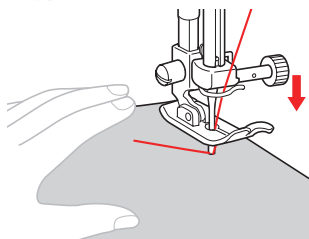


3 押えの下に布地を置きます。

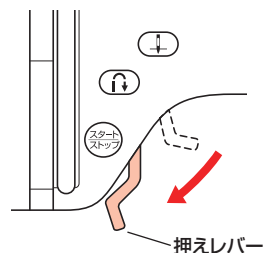
ぬいしろが右側になるように置くと、まっすぐにぬいやすく、余分な布地がじゃまになりません。

4 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して布地に針を刺します。

返しぬいをする場合は、その分手前の位置に針を刺します。



5 押えレバーを下に下げます。



▶ 布地がセットできました。

ミシンをスタートさせる

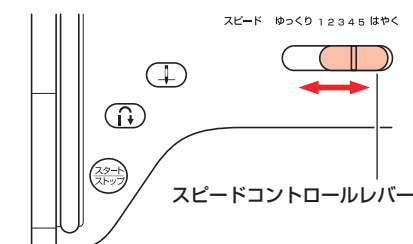
準備ができれば、ミシンをスタートさせます。
ミシンをスタートさせるには、指で操作する方法と、別売のフットコントローラーを使って足で操作する方法があります。

■ 指で操作する

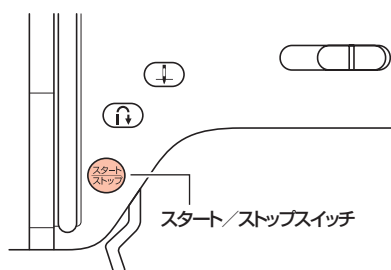
操作スイッチの  (スタート/ストップスイッチ) を押して操作します。

① スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

左にすると遅く、右にすると速くなります。



② (スタート/ストップスイッチ) を「ピッ」と音がするまで1回長押しします。



▶ ミシンがスタートします。

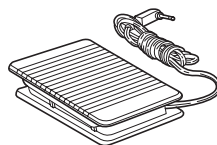
● スタート直後とスタート/ストップスイッチを押し続けている間は、ゆっくり進みます。

③ めい終わりまで進んだら、もう一度 (スタート/ストップスイッチ) を「ピッ」と音がするまで1回長押しします。

▶ 針が上がった状態でミシンが止まります。

■ 足で操作する

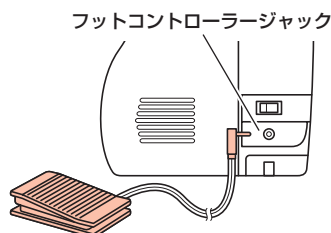
別売のフットコントローラーを使って足で操作します。



① 電源を切ります。

フットコントローラーを接続するときに、あやまってミシンが動作しないよう、必ず電源を切っておきます。

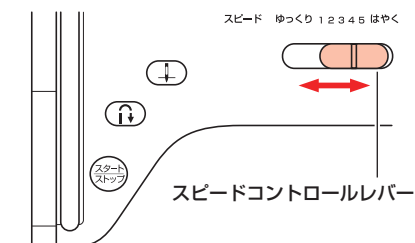
② 本体右側面のフットコントローラーjackに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



③ 電源を入れます。

④ スピードコントロールレバーを左右に動かして、フットコントローラー使用時の最高速度を調節します。

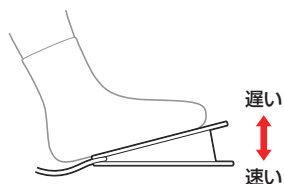
左にすると遅く、右にすると速くなります。



● スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラーの最高速度になります。

⑤ ぬう準備ができたなら、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。

深く踏み込むと速く、浅く踏むと遅くなります。



● 強く踏むとミシンが速く進んでしまうので注意してください。

▶ ミシンがスタートします。

⑥ ぬい終わりまで進んだら、踏むのをやめます。

▶ 針が上がった状態でミシンが止まります。

お知らせ

● フットコントローラー・ジャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれていると、操作スイッチのスタート/ストップスイッチは使用できません。

！ 注意

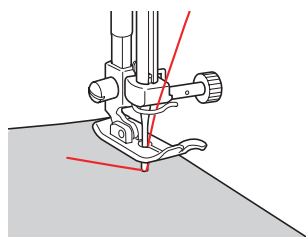


- フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。
- フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガ・故障の原因となります。
- 長期間で使用にならないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災・感電の原因となります。

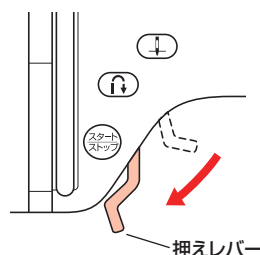
返しぬいをする

他のぬい目と重ならないところやあき止まりなどの直線ぬいのときに、糸の端がほつれないように返しぬいをします。

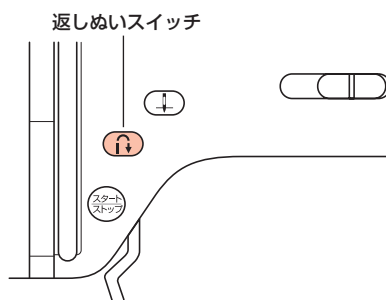
① ぬう端から3～5針分手前に針を刺します。



② 押えレバーを下に下げます。



③ (返しぬいスイッチ)を押します。

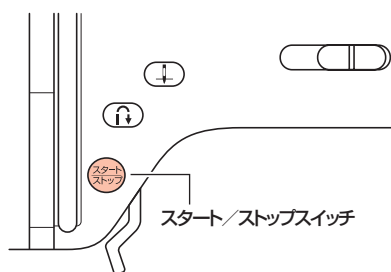


▶ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。

④ 3～5針ほどぬったら、返しぬいスイッチから手を離します。

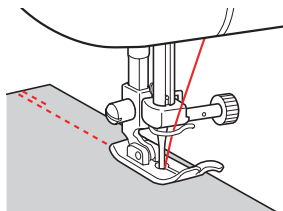
▶ ミシンが止まります。

- 5** (スタート/ストップスイッチ) (スタート/ストップスイッチ)を「ピッ」と音がするまで長押しするか、またはフットコントローラーを踏みます。



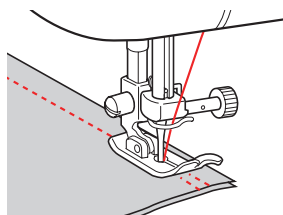
- スタートの手順は、「ミシンをスタートさせる」(→P.37)を参照してください。

▶ 通常の向きに針が進みます。



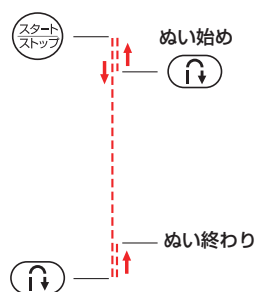
- 6** ぬい終わりまできたら、(返しぬいスイッチ)を押します。

▶ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。



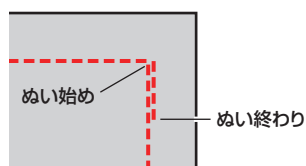
- 7** 3～5針ほどぬったら、(返しぬいスイッチ)から手を離します。

▶ ミシンが止まります。



■ ぬい始めとぬい終わりが重なる場合

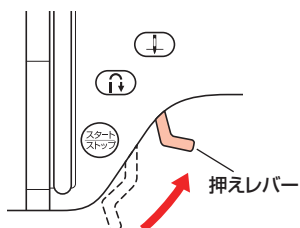
筒ものなどぬい目が1周するもの場合は、返しぬいをしないでぬい始めて、1周したらぬい始めのぬい目に3～5針重ねてぬいます。



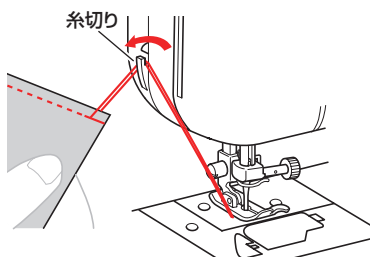
糸を切る

ぬい終わったら、糸切りを使って糸を切ります。

- 1 ぬい終わってミシンを止めたら、押えレバーを上げます。



- 2 布地を左に引き、本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切ります。



上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ミシンかけをするときの参考にしてください。

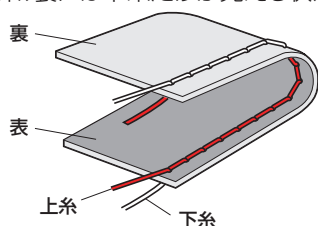
糸調子を調節する

上糸と下糸の強さのバランス(糸調子)を調節します。「針の種類と使い分け」(P.28)で記載している組み合わせでぬった場合は、自動的に適切な糸調子になります。思い通りの糸調子にならないときや、特殊な糸や素材をぬう場合などは、上糸の調子を強く、または弱くして調節します。

上ふた内の、糸調子ダイヤルを使用します。

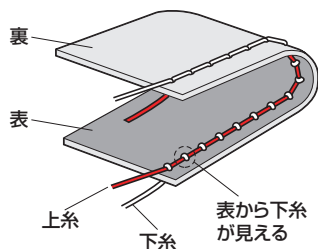
■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布の中央でまじわります。布地の表には上糸、裏には下糸だけが見える状態です。

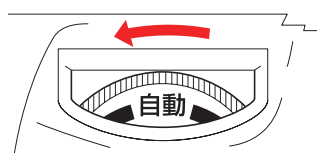


■ 上糸調子が強いとき

布地の表に下糸が見えている状態です。

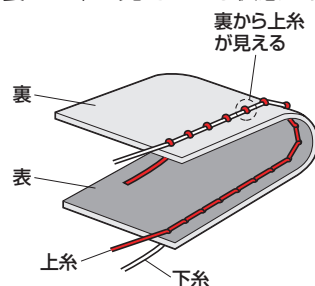


糸調子ダイヤルを左に回し、上糸を弱くします。

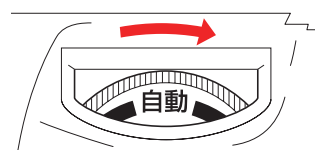


■ 上糸調子が弱いとき

布地の裏に上糸が見えている状態です。



糸調子ダイヤルを右に回し、上糸を強くします。



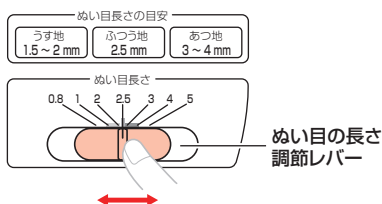
ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さ(1針が進む長さ)を調節します。

■ ぬい目の長さ

- ① ぬい目の長さ調節レバーを左右に動かします。

レバーを左に動かすと細くなり、右に動かすとあらかくなります。



! 注意



- ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

■ ぬい目の長さの目安

布地の特徴・種類		ぬい目の長さ
薄地	ローン	1.5~2mm
	ジョーゼット	
	ポーラ	
普通地	ブロード	2.5mm
	タフタ	
	フラノ・ギャバシン	
厚地	デニム	3~4mm
	コーデュロイ	
	ツイード	

試しぬいをする

布の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。

試しぬいは、実際の布地のはぎれと糸を使用して糸調子やぬい目の長さ・幅を確認します。ぬい方や布を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しぬいをします。

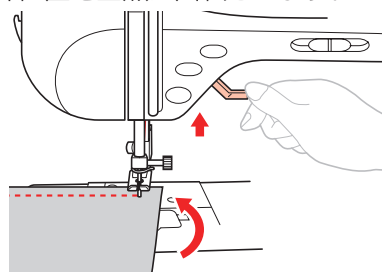
ぬう方向を変える

- ① 角までぬったら、ミシンを止めます。

⬇ (はり上/下スイッチ) を押し、針が下がった(布地に刺さった)状態にしておきます。

- ② 押えレバーを上げ、布を持って回します。

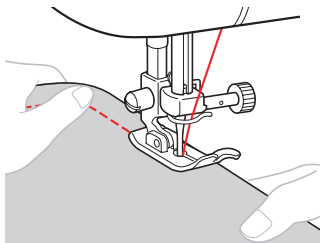
針位置を基点に回転させます。



- ③ 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

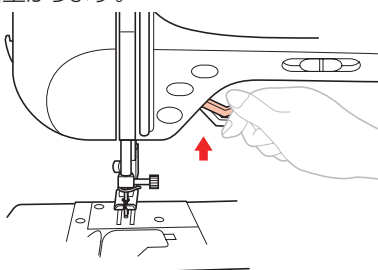
左手で布地の向こう側(ぬい終わった方)を少し引っ張って方向を変えながら進めます。「ぬいしろの幅をそろえる」(→P.44)を参考にして、ぬいしろと平行になるようにゆっくりとぬいます。



厚い布地をぬう

■ 押えの下に布地が入らないとき

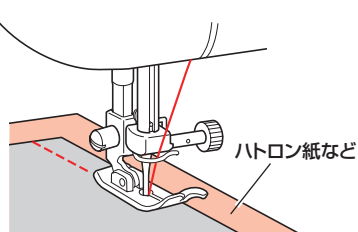
押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。



薄い布地をぬう

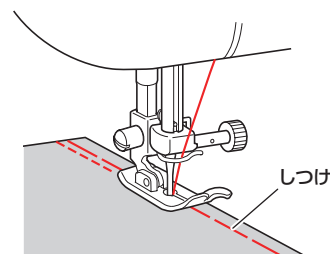
薄い布地の場合、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。

その場合は布地の下にハترون紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶいて取り除きます。



伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。

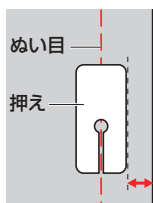


ぬいしろの幅をそろえる

ぬいしろと平行にまっすぐぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端が針板の目盛りを見ながらぬいます。

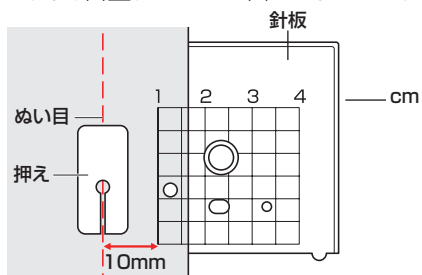
■ 押えを基準にする場合

押えの右端を参考にしてぬいます。



■ 針板を基準にする場合

ぬい目は針板の目盛りの左端から10mm離れています。針板に刻まれている目盛りを参考にしてぬいます。目盛りは5mm単位になっています。





3 その他のぬい方

ここでは、その他のぬい方とその使い方を説明します。

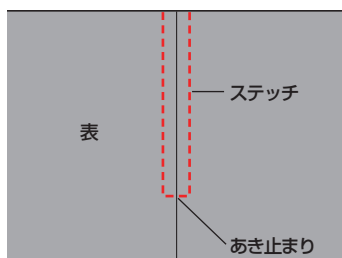
ファスナーを付ける.....	46
筒もののぬい方.....	50

ファスナーを付ける

ファスナーをぬい付けます。
ファスナーの付け方によってぬい方が異なります。ここでは、つき合わせと片返しの場合のぬい方を説明します。

つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。

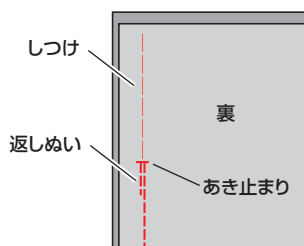


- 1 直線専用押えを取り付けて、あき止まりの位置まで地ぬいをします。

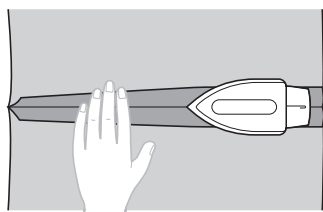
布地は表どうしを合わせ、あき止まり部分は返しぬいをします。

- 「地ぬい」とは、2枚以上の布を表どうし合わせて、印どおりにぬうことです。

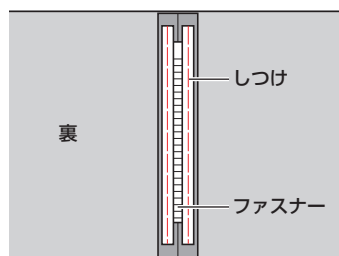
- 2 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



- 3 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



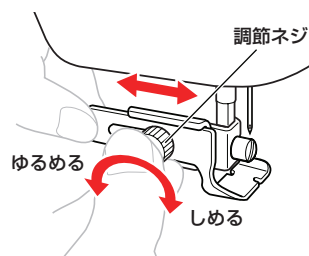
- 4 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



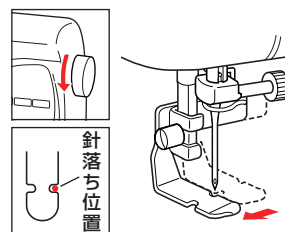
- 5 片押えを取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.31)を参照してください。

- 6 調節ネジをゆるめます。



- 7 プーリーを回し、針おち位置が右側になることを確認して、片押えの位置を固定します。

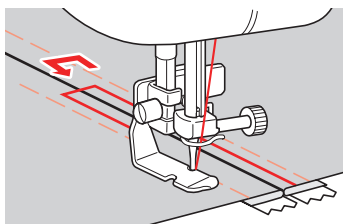
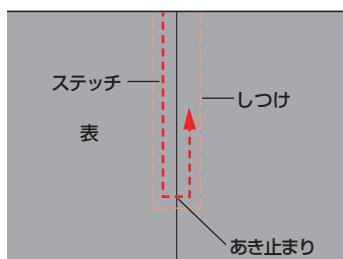


！ 注意



- 片押えを使用するときは、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

8 布地の表からステッチをかけます。



！ 注意

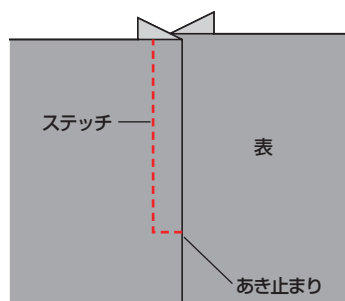


- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

9 しつけをほどきます。

片返し

布地の片側にステッチが入ります。脇あきや後ろあきのときに使用します。



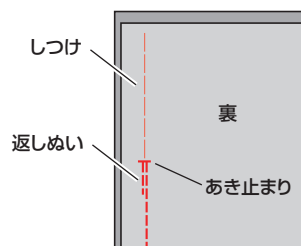
ここでは、図のように左側にステッチを入れる場合を例に説明します。

1 直線専用押えを取り付けて、あき止まりの位置まで地ぬいをします。

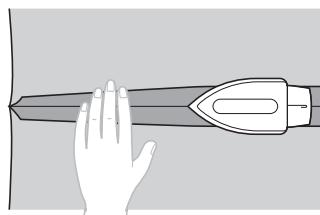
布地は表どうしを合わせ、あき止まり部分は返しぬいをします。

- 「地ぬい」とは、2枚以上の布を表どうし合わせて、印どおりにぬうことです。

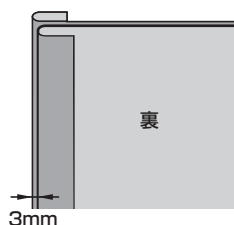
2 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



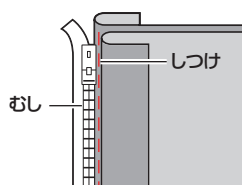
3 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



- 4** 右側(ステッチが入らない方)のぬいしろを3mm出してアイロンをかけます。



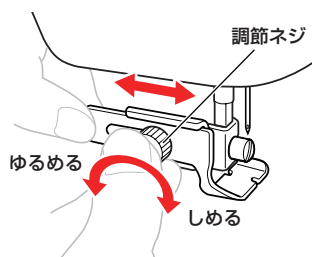
- 5** 3mm出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で止めます。



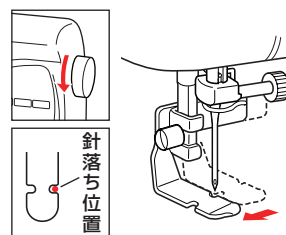
- 6** 片押えを取り付けます。

- 「押えを交換する」(→P.31)を参照してください。

- 7** 調節ネジをゆるめます。



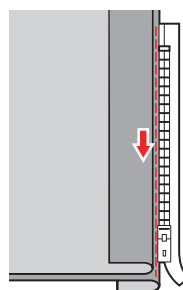
- 8** プーリーを回し、針おち位置が右側になることを確認して、片押えの位置を固定します。



注意

- 片押えを使用するときは、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

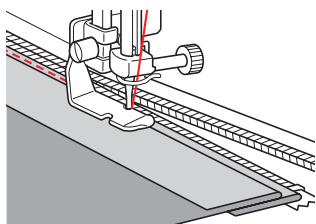
- 9** 3mm出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。



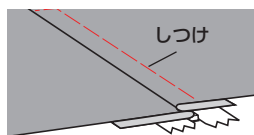
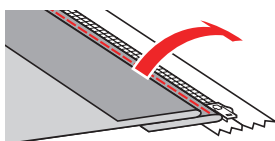
注意

- めう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

- 10** 残り5cmほどまでぬったらいったんミシンを止めて針を下げたまま押えを上げ、ファスナーを開いて続きをぬいます。

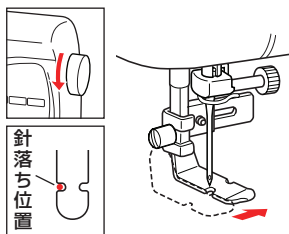


- 11** ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



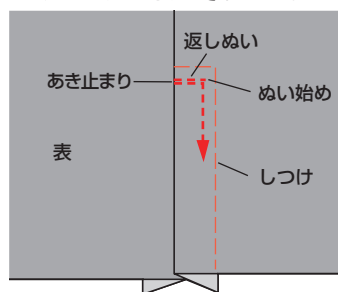
- 12** プーリーを回し、針おち位置が反対側になるように片押えの位置を調節します。

B で右側に調節した場合は、左側に調節し直します。



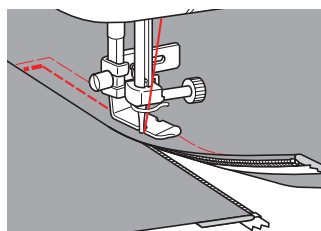
- 13** 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、押えの端をファスナーのむしにそわせてぬいます。



- 14** 残り5cmほどまでぬったらいったんミシンを止めて針を下げたまま押えを上げます。

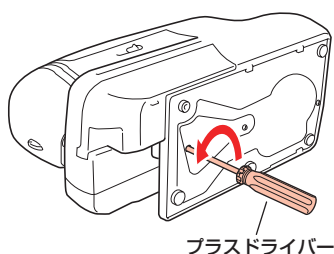
- 15** でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



筒もののぬい方

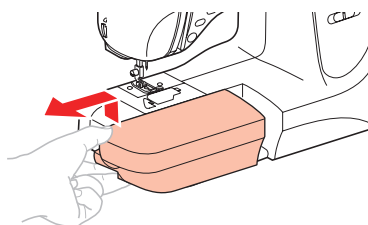
そで口やズボンのすそなどの筒状になっているところをぬうときは、フリーアームにすると便利です。

- 1** 本体を倒し、底面のネジ(1本)をはずします。



- 底面のネジをはずすドライバーは、付属品に同梱されておりません。お手持ちのプラスドライバーをご使用ください。

- 2** 補助テーブルを左に引き、はずします。

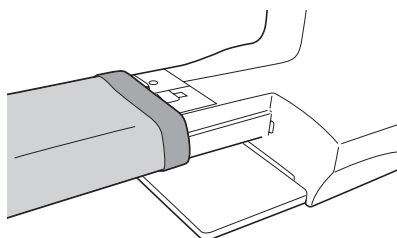


！ 注意



- フリーアームを必要としない場合は、本体底面のネジをはずさないでください。

- 3** ぬうところをアーム部分に通して外側からぬいます。



- 4** フリーアームを使い終わったら、補助テーブルをもとに戻します。

4 付録

ここでは、ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法をご紹介します。

お手入れ	52
困ったとき	54
仕様	58
索引	59
別売オプション	61

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

本体表面の掃除

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤を薄めて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

！ 注意

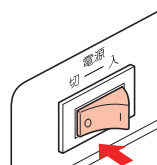


- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

釜の掃除

針板の下にある釜を掃除します。釜には糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

1 電源を切ります。

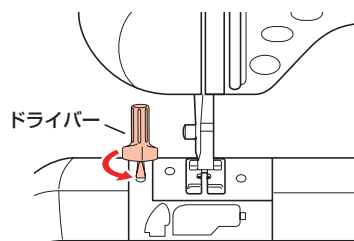


！ 注意

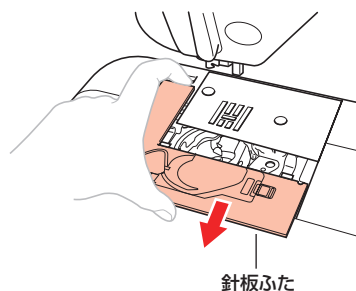


- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

2 針板ふたのネジをはずします。

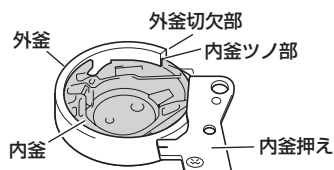


3 針板ふたの向こう側に指を引っかけ、手前にスライドさせます。



▶ 針板ふたが外れます。

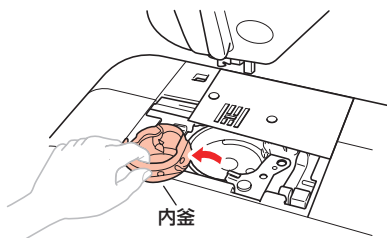
- 4** プーリーを手前に回し、外釜の切欠部と内釜ツノ部を合わせます。



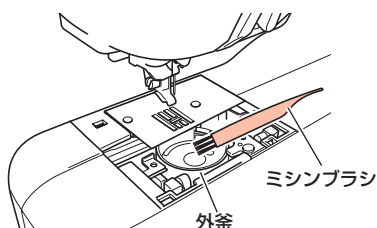
- プーリーは必ず手前に回してください。逆方向に回すと、故障の原因となります。
- 内釜押えは絶対に取り外さないでください。取り外すと、故障の原因となります。

- 5** 内釜を取り出します。

内釜を奥側に押しながら上に持ち上げます。

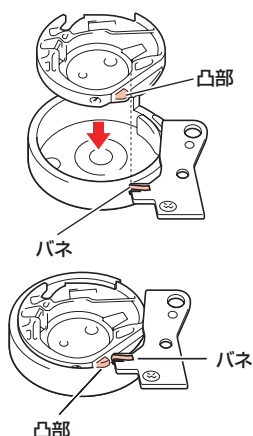


- 6** 付属のミシンブラシや掃除機で、外釜周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

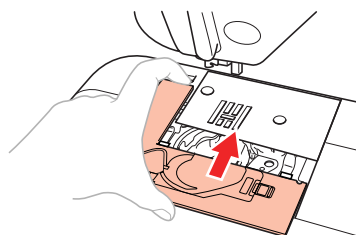


- 外釜や内釜に油をささないでください。

- 7** 外釜切欠部が **4** と同じ位置にあることを確認し、内釜の凸部とバネが合うように内釜を取り付けます。



- 8** 針板ふたのツメの部分を針板に差し込んでから、奥側にスライドさせます。



- 9** 針板ふたのネジを取り付けます。

！ 注意



- キズが付いた内釜は使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内釜は最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内釜は正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。
それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」にご相談ください。

こんなとき	原因	対処の仕方	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れます。	P.17
	スタート/ストップスイッチを長押ししていない。	スタート/ストップスイッチを「ピッ」と音がするまで長押しします。	P.37
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げます。	—
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P.37
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.30
	針の止めネジがゆるんでいる。	ドライバーを使って止めネジをしっかりとめます。	
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.28
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.41
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	—
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P.25
	針板の穴の周囲に傷がある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺に傷がある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」にご相談ください。	—
	内釜に傷がある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」にご相談ください。	—
上糸が切れる	本機専用のボビンを使用していない。	金属製のボビンでは正しく動作しません。 本機専用プラスチックボビンを使用してください。	P.22
	上糸の通し方がまちがっている。(糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、針棒糸かけから糸が外れているなど)	上糸を正しく通します。	P.24
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	—
	針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P.28
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.41
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P.52
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.30
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	
	針板の穴の周囲に傷がある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」にご相談ください。	—
	押えの穴の周辺に傷がある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」にご相談ください。	—

こんなとき	原因	対処の仕方	参照ページ
上糸が切れる	内釜に傷がある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119番」にご相談ください。	—
	本機専用のボビンを使用していない。	金属製のボビンでは正しく動作しません。 本機専用プラスチックボビンを使用してください。	P.22
下糸がからまる 下糸が切れる	下糸のセットの仕方がまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.22
	ボビンに傷があり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	—
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、釜を掃除します。	P.52
	本機専用のボビンを使用していない。	金属製のボビンでは正しく動作しません。 本機専用プラスチックボビンを使用してください。	P.22
糸調子が合わない	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	P.24
	下糸のセットの仕方がまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.22
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.28
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.41
	本機専用のボビンを使用していない。	金属製のボビンでは正しく動作しません。 本機専用プラスチックボビンを使用してください。	P.22
布地にしわがよる	上糸の通し方または下糸のセットの仕方がまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P.22, 24
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P.25
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.28
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.30
	薄地の場合に、ぬい目があらずすぎる。	ぬい目を細かくします。または布地の下にハトロン紙などを敷いてぬいます。	P.44
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.41
ぬい目がとぶ	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	P.24
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.28
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.30
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	
	針板の下や釜にほこりなどがたまっている。	針板ふたを外して釜を掃除します。	P.52
ぬっているときの 音が高い ガタガタと音が する	送り歯や釜にほこりがたまっている。	釜を掃除します。	P.24
	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	
	内釜に傷がある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119番」にご相談ください。	—
	本機専用のボビンを使用していない。	金属製のボビンでは正しく動作しません。 本機専用プラスチックボビンを使用してください。	P.22
きれいにぬえない	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.41
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P.52
布地を送らない	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	P.42
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.30
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P.52
手もとランプが点 灯しない	ランプが切れた。	お買い上げの販売店、または「ミシン 119番」にご相談ください。	—

電子音について

ミシンが正しく準備できていない状態でまちがった操作をしたときなどに、電子音でお知らせします。

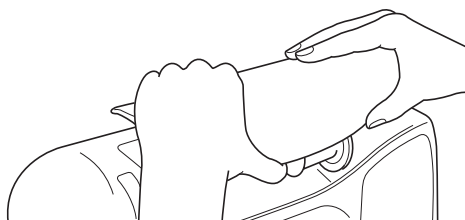
■ 電子音

- 正しい操作をしたとき
「ピッ」と鳴ります。
- まちがった操作をしたとき
「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。
- 糸がからむなど、ミシンがロックしたとき
「ピッピッピッ…」と4秒間鳴り続けます。ミシンは自動的に止まり、4秒経過すると操作可能な状態に戻ります。
必ず原因を確認して改善した上で、再開してください。

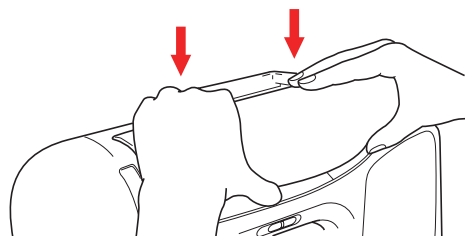
上ふたが外れたとき

本体上のふたが外れたときは、以下の手順で取り付けます。

- 1 上ふたを水平に持ちます。



- 2 上ふたを上から押して、本体に取り付けます。



仕様

本体仕様

項目	仕様
本体寸法	幅435mm×高さ287mm×奥行201mm
ケースセット寸法	幅468mm×高さ306mm×奥行225mm
製品質量	7.5kg（ケース付き：9kg）
ぬい速度	毎分70～710針
使用ミシン針	家庭用ミシン針HA×1
ランプ	白色LEDランプ
定格電圧／消費電力	100V／40W 50／60Hz

索引

P

PL 3

Q

Q&A 54

ア

アーム 50

厚地をぬう 43

安全に正しくお使いいただくために 3

イ

糸案内カバー 10, 19, 26

糸案内板 10, 19, 26

糸切り 10, 40

糸こま押え 8, 19, 25

糸たて棒 10, 19, 25

糸調子 41

糸調子ダイヤル 41

ウ

薄地をぬう 43

内釜 53

上糸 24

上糸調子 41

上ぶた 10, 25, 56

オ

送り歯 11

押え 9, 11, 31

押えレバー 12

お手入れ 52

カ

カーブをぬう 43

返しぬい 38

返しぬいスイッチ 12, 38

片返し 47

角をぬう 42

釜 22, 52

換気口 11

キ

曲線をぬう 43

ケ

ケース 8

コ

コンセント 17

シ

下糸 18

下糸巻き案内 10, 20

下糸巻軸バネ 20

下糸巻き装置 10, 18

下糸を引き出す 27

自動糸調子 41

シャッター 26

仕様 58

ス

スタート 37

スタート/ストップスイッチ 12, 37

ストッパー 30

スピードコントロールレバー 10, 12

セ

前面 10

ソ

操作スイッチ 10, 12

掃除 52

速度 37

側面 11

タ

試しぬい 42

ツ

つき合わせ 46

筒もの 50

テ

電源 16

電源コード 8, 11, 17

電源コンセント 17

電源スイッチ 11, 17

電源プラグ 17

電子音 56

添付品 8

ト

止めネジ 30

ドライバー 8, 30

トラブル 54

取扱説明書 8

ナ

長さ 42

ヌ

ぬいしろの幅をそろえる	44
ぬい目の長さ調節レバー	13, 42
ぬい目の長さの目安	13
布地のセット	36

ノ

伸びる布地	43
-------------	----

ハ

ハードケース	8
背面	11
早見表	8
針	28
針板	11, 44
針板ふた	11, 22, 52
はり上/下スイッチ	12
針の交換	30
針棒糸かけ	11, 26
ハンドル	11

ヒ

表示パネル	10, 13
-------------	--------

フ

フーリー	11, 36
ファスナー付け	46
付属品	8
フットコントローラー	37, 61
フットコントローラージャック	11
フリーアーム	50

ヘ

別売オプション	61
---------------	----

ホ

方向を変える	42
保証書	8
補助テーブル	10
細巻き	19, 25
ホビン	9, 18
本体	8

ミ

ミシン針	9, 28
ミシンブラシ	8, 53

メ

名称	10
----------	----

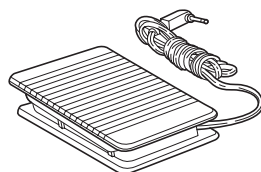
別売オプション

オプション品として、以下の製品を用意しています。

■ フットコントローラー

ミシンを足で操作するときに使用します。

(モデル名:FC31091)



お知らせ

- オプション品・部品については、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」にお問い合わせください。

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室(ミシン119番)」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室(ミシン119番)」にご相談ください。

■ お客様相談室(ミシン119番) 050-3786-1134

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室(ミシン119番)」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室(ミシン119番) Tel:050-3786-1134

Fax:052-824-3031

受付時間: 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室(ミシン119番)は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
- ミシン背面の定格ハリマーク(銀色シール)の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室(ミシン119番)」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<http://www.brother.co.jp/>

ブラザーソリューションセンターでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。

<http://solutions.brother.co.jp/>